

笑顔かがやく光っ子

みんなで育てる光っ子

学校便り

第323号
平成26年2月28日

練馬区立光が丘第八小学校
校長 鈴木 隆志

忘れないために

校長 鈴木 隆志

最近購入したCDに『希望のコカリナ～よみがえった石巻アカマツの奇跡』と『“奇跡の一本松”が奏でる星めぐりの歌』があります。どちらも、東日本大震災の「被災コカリナ」によって演奏されたものです。『希望のコカリナ』は、宮城県石巻市立門脇小学校の前で焼け残った一本のアカマツで作上げたコカリナによる演奏です。アカマツコカリナ約300本が門脇小児童や石巻の子供たちに贈呈され、CDにも石巻の子供たちによる合奏曲が収録されています。『星めぐりの歌』は、岩手県陸前高田市の高田松原にある、“奇跡の一本松”の枝から作り上げたコカリナによる演奏です。

コカリナは、もとは「桜の木でできたオカリナ」と呼ばれる、東欧ハンガリーの民族楽器でした。現在コカリナ奏者として活躍している黒坂黒太郎氏によって1995年日本に紹介され、「コカリナ」と命名されました。（「コカリナ」は登録商標です。）その後、黒坂黒太郎氏と日本の木工家によって、様々な改良が加えられ、今のような楽器として精度の高いコカリナが誕生しました。

黒坂黒太郎氏は1949年長野県上田市に生まれました。大学卒業とともに作詞、作曲、フォークシンガーの道に入り、1995年、「コカリナ」に出会います。1998年長野オリンピックで伐採されなければならなかった木からコカリナを製作し、オリンピック表彰式で子供たちと演奏したり、広島で被爆した木からコカリナを誕生させ、2001年国際平和シンポジウム（広島市主催）に招待され特別演奏をしたり、2004年の新潟県中越地震の際には、被災地支援活動の功績で国土交通省より表彰されたりしています。そして、今回の東日本大震災においても、100回に及ぶ被災地支援チャリティーコンサートを開催してきました。「紡ぐ」をテーマとした100回目のコンサートは、黒坂氏の故郷・上田市で2月23日に開催され、私も演奏を聴きに行ってきました。子供たちを含む250名での合奏は圧巻でした。被災地への思いを紡ぎ、胸に響く感動的なコンサートでした。

東日本大震災から3年が経ちます。被災地の方々にとっては、今もなお、辛く苦しい現実が続いています。一方で、東京に住む私たちの中では、意識の風化が起きていることも事実でしょう。でも、私は、東日本大震災を「決して忘れてはならないこと」だと考えています。未来を生きる光っ子たちには、命の尊さが分かり自他の命を大切にしながら生きていく人間になってほしいと願っています。

私自身が東日本大震災を忘れないためにしていることは、復興支援ソング・復興応援歌を聴くことです。これまでに集めた楽曲は300曲を超えました。放送室前に編集したCDとファイルを置いています。放送委員の子が時々お昼の放送に使ってくれています。それぞれの楽曲には、詞（ことば）やメロディーに込められた思いや願いがあります。それを聴くことで、意識の風化をさせないようにしています。まだまだ被災地の復興はなされていないのですから…。

3月、光っ子たちは、それぞれの学年のまとめに入ります。卒業する6年生にとっては、充実の毎日、濃密な一ヶ月となることと思います。在校生たちにとっても、一年間の大きな成長を糧に、それぞれに、自信をもって進級をしてほしいと願っています。この3月を、光っ子たち一人一人が有意義に過ごしていけるよう、学校もラストスパートで頑張ってもらいます。御家庭でも、これまで同様に御支援、御協力をよろしくお願いいたします。